平和とよりよき生活のために
広島のせいきょう

第16号　2005年11月29日
広島県生活協同組合連合会発行
〒730-0012
広島市中区上八丁堀8-23 林業ビル4F
TEL 082-502-3850
FAX 082-502-3860
E-mail:kenren.h@proof.ocn.ne.jp
URL:http://kenren.jccu.coop/hiroshima/

第34回広島県生協大会開催しました　10/17

広島県知事　藤田雄山様 ご挨拶

ご来賓
- 藤田雄山様（広島県知事）
- 平　浩介様（広島県議会副議長）
- 竹本輝男様（広島市民局長）
- 池田信義様（広島県労働者福祉協議会会長）
- 黒木義昭様（広島県農業協同組合中央会専務理事）
- 小熊竹彦様（日本生協連合会 中四国地連事務局長）

10月17日（月）、鯉城会館（広島市中区）にて、第34回広島県生協大会が、会場満員の300名の参加の下に開催されました。

式典では、主催者冨田巖会長理事の挨拶に始まり、藤田雄山県知事をはじめご来賓のみなさまから、生協への期待と励ましのメッセージをいただきました。

記念講演では、（財）日本ユニセフ協会専務理事の東郷良尚さんを講師に迎え、世界の子どもたちを取り巻く現状について、ビデオをまじえてお話いただき、戦後60年がたち豊かになった私たちのくらしを見つめなおしました。過酷な環境にある子ども達の課題は、決して私たちのくらしから遠い問題ではないことを改めて考えさせられました。

記念講演（財）日本ユニセフ協会 専務理事
東郷良尚さん

相互扶助を基本理念とする生協として、これからも、全ての人が安心してくらせる社会づくりに貢献できるよう、ユニセフ活動にも積極的に取り組みます。

＊ユニセフ・パキスタン地震緊急募金へ、参加者から12,030円の協力がありました。

活動発表

県連・食の安全委員会代表
花尾和代さん

「食育推進の取り組み」について「食品の表示」やおいしい「だし」を味わう学習会の活動を報告

広島中央保健生協
福島支部運営委員
藤行智賀子さん

組合員がインストラクターとなって「班会」で転倒予防体操をする取り組みについて報告

県連の活動

平和の取り組み 被爆60年。被爆地ヒロシマの生協と

1月 新春学習交流会 秋葉広島市長を講師に迎えNPT再検討会議について学習

被爆60年を迎える新春にあたり、秋葉市長を迎え、広島市の平和事業や平和市長会議の取り組みなどを伺い、核兵器廃絶のために私たちができることについて学びあいました。

1. 日時・場所：2005年1月13日(木) 10:00～13:30　メルパルク広島
2. 参　加　者：県連・会員生協の役職員・組合員リーダー　200名
3. 内　　容：①式典
②記念講演「核兵器廃絶のための緊急行動」秋葉忠利広島市長

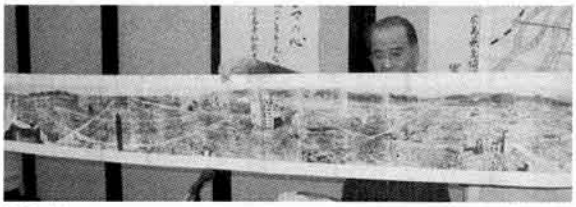
秋葉広島市長
「核兵器廃絶へ向け、世論の高まりや市民の声が直接届く活動に期待します」

3月 ピースフォーラム2005 ピースアクション期間(日生協提唱:3月～9月)の皮切り!

地域で活動する組合員を中心につどい、今年の取り組みの方向性を確認しました。

1. 日時・場所：2005年3月14日(月)13:30～16:00　鯉城会館5階パール
2. 参　加　者：90名
3. 内　　容：①講演「生協の平和運動とわたし」広島県生協連 冨田巌会長理事
「ヒロシマの心～今も語らざるをえないわたしの思い～」広島平和教育研究所研究員　江種祐司さん
②本日のふりかえりと今後の活動予定

冨田県連会長
「8歳で終戦。家族を奪われる悲しみ、空腹…。戦争の愚かさを幼心に深く刻まれ、以降の生き方に影響を及ぼしています。」



江種さん
「人は、背中から炎が燃え、頭皮が髪ごと肩までずれ落ちても、臓器と脳が動く限り何かを考え行動するものだと感じました。…許すことの出来ない戦争と原爆。その事実を知り、知った人が世界中に伝えることが、核兵器をなくすことにつながると信じ、願い、語り続けます。」

パネル展示、横断幕の書き込み、リーフレット販売などで活動を交流する参加者

4～5月 NPT再検討会議（ニューヨーク）へ代表者を派遣 *NPT＝核不拡散条約

「NPT再検討会議 被爆者・市民連絡会 代表団」(全国 生協37名・被団協41名)へ、広島の生協から、生協ひろしま出雲理事、菊本理事、県連小林事務局の3名を代表派遣。4月29日～5月6日、NYで被爆者のみなさんと「国連本部での原爆展」「セントラルパークまでの4万人パレードと集会」「各国政府への要請行動(英,仏,墨,日)」「学校等での被爆の証言(18箇所)」など様々な活動を展開し、核兵器廃絶への想いを国連・各国政府や米国市民に伝えました。

国連本部で初めて実現した原爆展。見学者と交流

核兵器廃絶4万人パレード。原爆展ハガキと手作りしたヒロシマ扇子と缶バッチを手渡し沿道の市民にアピール

日本国政府へ要請。大島大使に被爆者や生協組合員の署名を持参

ホテル前で被爆者の描いた絵を展示。見入る歩行者

5月 リーダー研修会 山下廿日市市長を講師に迎えNPT再検討会議報告会

日本非核宣言自治体協議会副会長としてNPT再検討会議へ参加した山下市長を講師に迎え、条約の役割と課題について想いを交え伺いました。続いて、会議に参加した生協の3名からの報告を聞き、市民の役割について考えあいました。

1. 日時・場所：2005年5月31日(火)
13:00 ～14:30鯉城会館　5階パール
2. 参　加　者：県連・会員生協の役職員・組合員リーダー60名
3. 内　　容：①講演「核兵器廃絶への道筋
～NPT再検討会議の結果を踏まえて～」
山下三郎廿日市市長
②参加報告
生協ひろしま 出雲泰枝子理事・菊本三千代理事、
県連 小林愛子事務局

出雲さん　　菊本さん
「会議結果は残念だけれど、海外NGOメンバーから勇気をもらった。市民の手で、核兵器廃絶への一歩一歩を一緒につくっていきましょう」

山下廿日市市長
「会議"決裂"の結果は、大国のエゴ。世界の多くの市民の思いとは反している。このような時期こそ、ともに粘り強く訴えましょう!」

して、様々な活動に取り組みました。

生協の平和活動

戦後、日本生活協同組合連合会の結成にあたり、平和こそが豊かなくらしと生協運動の発展の基になることを確認し、「平和とよりよき生活のために」をスローガンとすることを決め、様々な取り組みを続けています。

6月 被爆体験を聞くつどい

「今だから聞いて感じる原爆のお話し～ともそう!ピースキャンドルに平和の灯を～」と題し、子どもも大人も一緒に、少人数でひざをつきあわせ被爆者のお話を聞き、感じたことをわかちあいました。

1. 日時・場所：2005年6月25(土)・26(日) 10:30～16:00
   広島市まちづくり市民交流プラザ・ギャラリー
2. 参 加 者：会員生協の組合員・職員とその家族　子ども17名、大人21名
3. 内　　容：①キャンドルづくり
   ②オリエンテーション「お話を聞くこととは」
   直野章子九州大学大学院助教授
   ③被爆体験を聞く
   スピーカー:新見愛枝さん,池上慶子さん,原廣子さん,
   辰本二郎さん(中央保健生協組合員)
   ④ふりかえり・おみやげづくり「感じたことをボードに書いて持ち帰ろう」

「見て!お花の飾りのキャンドルよ」

辰本さんの話を真剣に聞く親子

7月26日～8月4日 ピースリレー

7月8日に「ピースリレー2005広島県連絡会」で結団式を行い、26日から県内7箇所をのべ1,000人が歩き、平和の想いをつなぎました。(1箇所大雨で中止(東広島))

◆7/26(火)福山

東京(5月)から1都2府9県をバトンされてきた横断幕

◆7/27(水)大竹

中川大竹市長

広島～山口 県境「大和橋」

大竹会館から和木町役場まで、広島・山口の市民が一緒に歩きました

リレーにあたって行政首長の方々からメッセージをいただきました。ありがとうございました

自治体	お名前	当日お越し頂いた方
福山市	羽田 皓　市長	ご本人
大竹市	中川 洋　市長	ご本人
因島市	村上 和弘 市長	ご本人
呉市	小笠原臣也市長	辻　市民部長
三次市	吉岡広小路市長	佐伯 市民生活部長
東広島市	上田 博之　市長	(メッセージ)
広島市	秋葉 忠利　市長	(メッセージ)

◆7/30(土)因島
村上市長(中央)が150名の参加者と全行程ご一緒に歩いてくださいました!

◆8/1 (月)福山、呉、三次

羽田福山市長

三次 子ども達も元気です

呉 アーケード「れんが通り」

◆8/4(木)平和公園〈ファイナル〉

県内外から280人が、本通り商店街などをアピールし平和公園めざしました

慰霊碑へ献花。左から県被団協清政さん・坪井理事長,県生協連冨田会長,宗教者NGO松浦さん

「被爆60年の今もなお戦争やテロで多くの市民が犠牲になっています。核兵器も、いかなる暴力も許してはなりません。共にがんばりましょう!」との県被団協坪井理事長の言葉に、皆で思いを一つにし、集会を終えました

"ピースリレー2005広島県連絡会" 構成団体 ＊提唱:日本生協連

○広島県原爆被害者団体協議会　○広島県原爆被害者団体協議会　○広島県宗教者NGO協議会
○広島県地域女性団体連絡協議会　○広島県青年連合会　○広島県生活協同組合連合会

8月4日～8月6日 ピースアクションinヒロシマ

全国の生協では、3月から9月までを「ピースアクション期間」として位置づけ、今年は1,000箇所30万人が平和の活動に取り組みました。

日本生協連合会と広島県生協連合会では、みんなの平和の願いを広島に持ち寄る「ピースアクションinヒロシマ」を、毎年8月4･5･6日に開催し、被爆の実相を学び核兵器廃絶への道を考えています。

メイン企画 ヒロシマ 虹のひろば 8月5日 【広島県立総合体育館 グリーンアリーナ】

今年で通算27回目となる虹のひろば。被爆60年の今年は75生協･1200人（昨年比2割増）の参加がありました。

昨年から「参加型」をキーワードに、後半はフェスティバル形式で誰もがそれぞれの興味関心に応じて参加できるよう企画刷新を図り、子ども達の参加も増え、笑顔と活気あふれる2時間半となりました。

◆ 前半・式典「虹のステージ」

<オープニングコンサート>

「地球ハーモニーレイボースターズ2005」（平和を歌う南アフリカのティーンエイジャー）の歌とダンスで会場は盛り上がりました

<主催者あいさつ>

小倉修悟 日本生協連会長
「命･人間の尊厳を大切にすることが生協の原点。核兵器のない平和な社会を実現しましょう」

<開会宣言>

6月の被爆体験を聞くつどいに参加した子どもたち　「今日はみんなと友達になって、私の思いを伝えたいです」と開会宣言

<被爆の証言>

山下三郎 廿日市市長
（15歳、学徒動員として工場で被爆）「誰にも同じ思いはさせてはなりません。手を取り合い真の平和と美しい地球を残す努力を続けましょう」

<合唱>

80人が心をあわせ、新曲「にじいろの未来（ゆめ）」（有志作詞のヒロシマ虹のひろばテーマソング）と「花」を歌いました

◆ 後半・フリー参加「みんなのひろば」

<いろいろコーナー（9企画）>

<大きな鶴をつくろう>
力を合わせて3Mと6Mの紙でつくった鶴は、アリーナの天井高く舞い上がりました

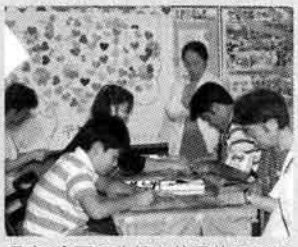
こんなに高く舞い上がりました

<タイムカプセル･5年後の私への手紙>
今の思いを書いたハガキを「5年後に届くポスト」に投函。未来の自分はどんな気持ちで読むのかな･･

<サダコと折り鶴のおはなし>
佐々木貞子さん中学担任の野村先生の話に参加者は涙しながら聞き入っていました

<民族衣装で撮影!>

<出展コーナー（35ブース）>



県内･全国の生協と他団体あわせて35箇所から出展。様々な工夫を凝らしたブースに、参加者との会話もはずみます

分科会 8月4･5･6日 ピース映画フェアなど15の多彩な企画でのべ1,200人が平和の想いをわかちあいました

<ユニセフキッズフォーラム>

キャンデーを使った「富の分配ゲーム」などで、世界や途上国の子ども達の現状を体験的に学びました

<親子で聞く被爆の証言>

<親子で参加する碑めぐり ～触れるフィールドワーク>

国境線のない世界地図が描かれた平和の鐘をつく子どもたち

初級職員研修会 4/9

4月9日、鯉城会館で、4会員生協45名の初級職員が集まり研修会を行いました。県連岡村専務理事から「生協で働くことと仕事の価値」、県連橋野俊子理事（生協ひろしま理事）から「組合員の立場から生協職員に求めるもの」、広島中央保健生協の東区居宅介護支援事業所山田寿美子所長から「医療・福祉の現場からの報告」と題し講義が行われました。

また、平和記念公園内で碑めぐりを行いました。広島出身であっても平和学習の機会が少なく、貴重な場となったようです。ワークショップでは、さまざまな生協また職種の異なる職員同士で活発な意見交換が行われ県連らしい交流ができました。

わきあいあいのワークショップ

2005年度 通常総会 5/30

主催者挨拶 冨田会長理事

5月30日、鯉城会館にて、2005年度県連通常総会を開催しました。

ご来賓
- ●天野千秋様（広島県環境生活部管理総室長）
- ●池田信義様（広島県労働者福祉協議会会長）
- ●西岡恒治様（広島県農業協同組合中央会理事）
- ●小熊竹彦様（日本生協連合会中四国地連事務局長）

はじめに、冨田会長理事より主催者挨拶があり、新潟中越地震やスマトラ沖地震に対し県内生協から全国でも抜きん出て多くの善意が義援金の形で寄せられたことへの感謝、関係諸団体とともに取り組んできた消費者政策充実を求める運動が実を結んだ広島県消費生活条例の改正、新たに発足するCSネット（コープ中国四国事業連合）が10月に事業開始することなどに触れられ、公的負担増や急速な少子高齢化などくらしへの不安もつのる中、組合員と地域社会へ貢献していきたいとの意が述べられました。続いて、広島県環境生活部管理総室長天野千秋様をはじめご来賓の皆様から、生協に対する期待と励ましのメッセージをいただきました。

2004年度活動報告では、県連くらし・消費者委員会代表の砂月さんから、消費者政策充実の取り組みについて、また、県連食の安全委員会代表の花尾さんからは、食育に関する普及啓発活動について発表がありました。

2005年度はユニセフ活動の推進、消費者政策充実の取り組みなど、県内生協はもちろん他団体や行政とも広く連携し、福祉・医療、環境、食の安全、消費者政策などの各分野に積極的に取り組み安心してくらせる地域社会づくりに貢献すること、とりわけ被爆60年の今年は平和活動を例年に増して重点的に展開することを確認しました。

ユニセフ（国連児童基金）活動

全国・県内の各生協では、募金を中心としたユニセフ活動に20年以上取り組み続けています。広島県生協連でも、ユニセフ活動の和を広げるため、様々な活動を展開しています。

- ◆4/17 …… 平和テント村出展・ユニセフ缶バッチづくり
- ◆6/1 …… HJCまつりでユニセフカード販売
- ◆6/23~6/30 ‥ 一般ボランティアさんと ユニセフポスター展開催
- ◆8/4 …… ピースアクションinヒロシマ分科会で「ユニセフキッズフォーラム」開催

6/23ポスター展（まちづくり市民交流プラザ）
民族衣装でアピールするボランティアさん

コープ中国四国事業連合が誕生しました

生活協同組合連合会コープ中国四国事業連合（通称「コープCSネット」）は、2005年7月22日に創立総会を開催、9月28日付けで設立認可証を厚生成労働大臣より受理し、10月1日より事業を開始しました。

各生協の自主的な商品と活動を尊重しつつ、中四国9生協（鳥取県生協、生協しまね、おかやまコープ、生協ひろしま、コープやまぐち、とくしま生協、コープかがわ、コープえひめ、こうち生協）の知恵と力を集結して、高い水準の商品力を実現していきます。

三橋理事長あいさつ

2006年4月からは、中国地域5生協の商品カタログ統一および中国・四国地域9生協の食品以外の商品チラシ統一を始めます。

コープCSネットは、

①組合員の心豊かなくらしと願いの実現に貢献できること
②参加生協の事業発展と経営基盤の強化に貢献できること
③それぞれの生協がそれぞれの地域で自立してすすめる生協運動の発展に貢献できること
④一つひとつの生協ではできなかったことを9生協の連帯の力で実現していくこと

をめざし、活動を展開していきます。

広島県生協連合会の会員生協が13に増えました。どうぞ、よろしくお願いします。

生協法改正学習会

日時：2005年9月15日（木）　13:00～14:30
場所：林業ビル8階会議室　（広島市中区）
講師：日本生協連法規対策室長　宮部好広さん
参加：会員生協組合員・役職員35人

日生協法規対策室長
宮部さん

生協法改正のポイントについて、9生協35名の組合員・役職員とともに学びました。

終戦後間もない1948年に消費生活協同組合法が制定されてから半世紀以上がたちますが、制度の骨格に関わる法改正はなされておらず、現状にそぐわない点がいくつか出てきています。今回は特に、区域制限と員外利用規制の2つの重点課題について理解を深めました。

現状に即した法改正によって、組合員のくらしに一層役立つ仕組みをつくり、社会に開かれた生協として持続可能なコミュニティ形成へ貢献することをめざし、今後も取り組みます。

“だし”をテーマに「食育」学習会を開催中

広島県生協連・食の安全委員会では、今年度、「身近なところから“食育”を考えよう!」をテーマに活動を展開しています。

手作り・郷土料理・おふくろの味・家族の団欒・・・の大切さを伝えたいと、料理の基本である“だし”を切り口に、県内4ヶ所（福山・因島・東広島・広島）で、“だし”のとり方のコツを伝える試食会を開催中です。

福山会場の様子

あわせて、「食の安全に関する推進プラン」（広島県）に位置づけられている「食品表示ウォッチャー制度」の普及啓発を目的に、行政から講師派遣の協力を得て、ウォッチングカード活用の流れと食品衛生法やJAS法などについても理解を深めています。

(財)日本ユニセフ協会 広島県支部設立発起人会 発足

日時：10月17日(月)13:00～14:00
場所：メルパルクHIROSIMA（広島市中区）
参加：70人

ユニセフは世界157の国と地域で、子どもたちの保健・栄養・教育・水と衛生などの支援を行う国連機関です。現在、1日に約3万人、年間に約1,100万人もの子どもたちが5歳の誕生日を迎えることなく命を失っています。

そこで、広島からも支援の輪を広げるために(財)日本ユニセフ協会広島県支部の設立（全国で18箇所目）を目指し、このたび、発起人会を発足させました。

2006年3月の設立をめざし、現在、個人・法人会員、およびボランティアの募集などを行っています（会員会費の半額が県支部の運営資金となります）。

広島県生協連は多くの団体・個人のみなさまとともに、事務局サポートなど、支部設立に積極的に取り組んでいます。

ご協力とご支援を、よろしくお願いします。

左から　秋葉広島市長、東郷日本ユニセフ協会専務、牟田広島大学学長

発起人（敬称略）　順不同

広島県	知　事	藤田 雄山
広島市	市　長	秋葉 忠利
(株)中国新聞社	代表取締役社長	今中 亘
広島県医師会	会　長	碓井 静照
広島県商工会議所連合会	会　頭	宇田 誠
広島県教育委員会	委員長	小笠原 道雄
広島県農業協同組合中央会	会　長	児玉 静秋
社会福祉法人広島県社会福祉協議会	会　長	竹下 虎之助
(財)広島県体育協会	会　長	多田 公熙
広島県生活協同組合連合会	会長理事	冨田 巌
(財)広島県女性会議	理事長	檜山 洋子
中国・地域づくり交流会	会　長	平岡 敬
広島大学	学　長	牟田 泰三
広島弁護士会	会　長	山田 延廣
広島経済同友会	代表幹事	山本 一隆
(財)ひろしま国際センター	会　長	渡辺 一秀

ボランティアさんを募集しています

(財)日本ユニセフ協会広島県支部設立発起人会 事務局
Tel　050-3603-9055　　Fax 082-502-3860
〒730-0012　広島市中区上八丁堀8-23 林業ビル4階

住まいのセミナー　2005

日時：①6月18日(土)、②7月23日(土)、③8月20日(土)、④9月10(土)
場所：林業ビル8階大会議室（広島市中区）
主催：木の香る住宅工房、広島県生活協同組合連合会、JAグループ広島
参加：一般のべ114人

「"安全・安心な住まいづくり"と"森林保全"をトータルで考えたい」、「一生で最も大きな買い物である家について、消費者もきちんと学べる場を持ち"専門家と一緒につくる"ことが大切なのではないか」そんな問題意識からスタートし、7年目を迎えた「住まいのセミナー」は、今年も大好評のうちに終了しました。

今年は、昨年アンケートをもとに、実際に家を建てた方への「迷ったこと・よかったこと」インタビューや、メンテナンスをテーマに自然塗料や土壁を塗ってみるなど、体験型の企画を多く盛り込みました。

来年も実施の予定です。どうぞお楽しみに!

◆広島県生協連合会は 各種 審議会・協議会へ 委員として参画しています◆

広島県消費生活審議会、広島県環境審議会、広島県県営住宅管理審議会、広島県食品安全推進協議会、牛肉トレーサビリティシステム推進協議会、広島県災害ボランティア支援連絡会議、農林水産省中国四国農政局中国四国地域食育推進協議会、ひろしま地球環境フォーラム、広島地方裁判所委員会、など計22

会員生協レポーターからの報告

広島中央保健生協　6月に『生協さえき病院』オープンしました

「健康で安心して住み続けられるまちづくりをしたい。それを支える生協の病院がほしい」･･･そんな組合員の願いを実現するために、約2年間の病院建設の取り組みを経て、2005年6月に生協さえき病院を広島市佐伯区八幡東に開院することができました。多くの組合員をはじめ地域のみなさま、そして県内生協の仲間のご支援、ご協力に、役職員一同感謝申し上げます。

さて、生協さえき病院は、114床の入院施設を有し(一般病床54床、療養病床60床)、リハビリテーション、在宅医療との連携を重視し、慢性期、高齢者の医療に力を注ぎます。また、病院内には「小児から高齢者まで」の歯科もあり、医科･歯科の連携を重視した医療をすすめます。

地域の医療機関や介護サービス事業所と連携しながら、組合員･地域のみなさまとともに地域の健康づくりの一翼を担いたいと思います。

スタッフ一同、力を合わせて運営してまいりますので、引き続きのご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

広島医療生協　2年目の回復期リハビリテーション病棟も順調です

広島共立病院回復期リハビリテーション病棟も2年目を迎えました。この1年間紹介患者様延べ275名が入院され、237名が退院されました。患者様を中心にご家族と共に医師、看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士などがリハビリプログラムを作り「寝たきり予防と」「家庭復帰」を目標に取り組んできました。その結果75%の在宅退院となり、この数字は全国平均と比較して好成績と思われます。家族面談を通して退院日を決定するなど家族との細かな対応が家庭復帰、在院日数の短縮につながっていると思います。また、ボランティアさんによる、毎週の音楽活動や組合員主催の学習会なども大きな支えです。

昨年10月からは病棟バイキングも始め、患者様からはとても好評で楽しみにされています。こうして様々な行事を取り入れながら少しずつ患者様のADL（日常生活動作）が回復される様子を見るのは回復期リハ病棟で働くスタッフにとって何よりの楽しみです。

今後もどこにも負けないリハ病棟づくりに挑戦したいと思います。

R100 PRINTED WITH SOY INK